

② 大井たる地名の由来について再考

去る4月18日の当会で、大井という地名の由来を岡山県通史の「大井の名は葉田の大堰から起こるか。其は大井古市場の上方鍛冶山下の堰にして山麓の用水路を通じて上足守、下足守、上土田、下土田（つまり、足守庄）を灌漑す。」の記載をもって、「薬研渚から農協GS裏の井の端まで最大400mの大堰…」とインプットされている方もあるかと思います。

しかし、井堰の大小はともかく、それが大井の地名の起こりか否かについて疑問が生じてまいりましたので、その次第をお披露目し、皆様のお考えをお伺いする次第です。



まず、足守庄の成り立ちについて足守庄関連遺跡発掘調査報告（1994年岡山市教育委員会）は、「庄域内の水田は、弥生時代から古墳時代、奈良時代にかけて谷水や足守川の枝水を水源としながら順次山麓から河床に面積を拡大し、平安時代前期の9世紀～10世紀に足守川から直接取水する水路と井堰を設け一面的に水田化し条里地割を行った。」と述べます。つまり葉田の大堰は、9～10世紀に完成したことになるのです。

しかしそうであれば、この大堰を大井の地名の由来とすることに疑問が生ずる訳です。

まず、あしもり学園内の大森遺跡調査をもとに、この遺跡周辺の条里が復元されています。それによると、足守川流域に面する西半分が条里の遺構をとどめていないのは、早い時期に荘園化、即ち、私領化された結果、災害復旧に国の象徴たる条里地割を採用せず、被害後の地形のまま水田地割を行ったためではないかと推測されています。（「大森遺跡」2014年岡山市教育委員会）

つまり、足守庄より大井庄の完成が早かった可能性を排しきれないということです。

更に決定的なことは、天平11年（739）に作成された備中国大税負死亡人帳に、備中国加夜郡大井郷粟井里の記載があることです。足守庄の完成より、およそ100年～200年前に既に大井の地名があったということになります。



大井森の足守川取水堰

ここまでくると、「其は鍛冶山下の…」と悠長に構えている訳にもまいりません。では、大井の地名はどこからきたのでしょうか。

まず、葉田の大堰と同様な考え方によれば、足守川からの取水堰が挙げられます。備中誌は大井森を旧跡であると言います。まず、井の字に意味があります。第一候補です。

次に、井とは泉や流れなどの水をくむ所という意味を斟酌すれば、井戸ということもある訳で、現地調査に努めましたところ、果たして、大森地内の吉備高原自転車道東脇に牛が落ちたと伝わる



大井戸がありました。これも旧跡、大井森の所以となるものかもしれません。今は、大きな石で塞がれひっそりと世間から埋もれようとしています。



更に、字東大森と字岡屋敷に井戸敷があったことが判明しました。今は、どちらも民有地の様子ですが、少なくとも明治中頃までは官有地として伝わりました。

地表水に事欠かないこの地に共同（官有）井戸として伝わったことに意味があると考えます。

しかも因縁と言えば因縁、大森遺跡の調査により縄文時代晩期（紀元前1000年）の遺構から出土した大型の石棒が、岸辺の、共通の水くみ場的な場所に建てられていたと推測されており、実に3千年の昔に井の種が蒔かれていたということになります。



そして最後はこれぞ本命中の本命、吉備津彦命



の妃百田弓矢媛が肌を磨いた玉の井を挙げ、氏子としての責を果たす次第であります。大井神社裏、宮山の尾根にあって古来水の涸れぬ不思議な泉です。

歴史秘話… 妃に選ばれるにはやはり理由があったんですね。



終わりに当たり、皆様には呉々もかくの如きコダイ妄想にとらわれぬ冷静なご判断をお願いする次第です。